

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)茅ヶ崎公園体験学習施設	階数	地上2F、地下1F
建設地	茅ヶ崎市中海岸三丁目11483番59外	構造	RC造
用途地域	第一種低層住居専用地域、法第22条区域、都市計画公園	平均居住人員	170人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,672時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年11月 予定	評価の実施日	2016年12月25日
敷地面積	6,576 m ²	作成者	株式会社寺田大塚小林計画同人
建築面積	1,542 m ²	確認日	2016年12月27日
延床面積	3,296 m ²	確認者	株式会社寺田大塚小林計画同人



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.7 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (46 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み: 78%

③上記+②以外の: 76%

④上記+: 76%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.5

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項		その他
総合 ・都市公園の中に設置される体験学習施設で、青少年会館と福祉会館の機能を継承した機能をもつ施設。 ・周辺よりも低い敷地を活かして低層でセットバックをした外観とした。公園の風景と一体化して、既存のクロマツ疎林の中に建物が見え隠れする、緑がつながる建物を目指した。		・津波一時避難場所として利用できるように、屋上やテラススペースを広く設けた。 ・「冒険あそび場」など、公園を利用したボランティア活動にも寄与できるように、自由に使えるスペースのレイアウトや手洗い・倉庫などの配置に配慮した。 ・利用者団体(55団体)のヒアリング、自治会や市民との意見交換を基本設計、実施設計で段階的に行い、詳細な要望についても極力計画に反映した。
Q1 室内環境 ・深い庇と緑化パーゴラ、緑化ネットによって室内への熱の侵入を抑制した。 ・ほぼ全ての居室からテラス・光庭に直接つながることができ、通風や自然採光に配慮した快適な室内環境を求めた。 ・天井までのサッシとしてハイサイドライトと同様の自然採光が得られるよう配慮した。 ・建具の防音性を高くして、外部や他室へ活動の影響がないよう配慮した。	Q2 サービス性能 ・共用空間を広く取り、市民の誰もが自由に利用できるスペースを設けた。 ・公共施設として耐震性1.25倍を満たした。 ・災害時でも非難しやすい、どこからでも外部に出やすいレイアウトとした。	Q3 室外環境(敷地内) ・既存のクロマツ疎林を保全することを前提として植栽計画をまとめた。 ・どきや既存の高木、新植の高木で日影の形成に努めた。 ・庇を深くし、緑化パーゴラや緑化ネットを設けることにより、中間領域を形成した。 ・植栽は市の推奨する在来種から選定し、自生種の保全に配慮した。 ・市民が利用できる屋上菜園を設けたり、屋上緑化を積極的に行い、建築前よりも緑量は多くなっている。
LR1 エネルギー ・太陽光発電を採用することで、自然エネルギーの変換利用を図る。 ・水蓄熱空調機採用により、電力利用のピークカットピークシフトを行った。 ・地間に光庭を設けることで、自然採光・通風・換気効果を図った。	LR2 資源・マテリアル ・全館LED照明を採用し、省エネルギー化を図った。 ・高効率空調機採用による省エネルギー化を図った。 ・エコマテリアルケーブルを採用し環境へ配慮した。 ・屋外散水、屋上灌水に井戸水を採用した。(海浜地なので雨水利用に適していない)	LR3 敷地外環境 ・既存の公園環境が向上するように配慮した。雨水排水抑制機能の改良・強化、電気引き込みや上水引き込みのインフラ再整備など、施設設計を超えた配慮を行った。 ・建物をセットバックする形状として、風環境や日照に配慮した。 ・庇を深くすることで、ガラスへの映り込みを抑制し光害に配慮した。 ・既存がテニスコートで夜間照明が少なかったところへ市民利用施設ができることで、防犯性の向上が期待できる。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除いた年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される